

週替わりで一息！

「七十二候」について

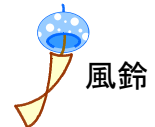
第1990回例会（初版）

自然の暦「二十四節気七十二候」（にじゅうしせつきしちじゅうにこう）は、古代中国で作られ日本に伝えられました。二十四節気は半月ごとの季節の変化を表しますが、これをさらに約5日ずつ、3つの候（初候／次候／末候）に細分し、季節の移ろいを気象や動植物の変化・成長などによって表したものが七十二候です。

7月1日から新しい年度になるのに伴い例会の月日に合わせ、七二候を週報の裏面に取り入れていこうと思います。またその同じ日付の10年前のニュース記事も併せて例会の合間にでもご覧頂けると幸いです。

夏至(げし)末候（北半球では一年中で一番昼が長く夜が短い日）

「七月二日～六日」 半夏生(はんげしょうず)30



風鈴

「からすびしゃくが生える」シカハンゲ、ムラサキハンゲ、ヤマハンゲ

があり山地の道端や畑地に自生する多年草で畑では雑草扱いですが、コルク層を除いた塊茎は、半夏(はんげ)という生薬になります。この頃京都では無病息災祈願を由来とされる祇園祭が開催されます。また福井でも暑い夏を無事越せるようにと「茅の輪(ちのわ)くぐり」祈願祭がおこなわれたり、焼き鯖を丸ごと食べるのもこの時期です。

10年前の主なニュース(2005年7月1日～7月9日)

国際テロ組織アルカイダの犯行とされるロンドン同時爆発テロ、やれば出来る民営化郵政法案採決、とりあえず上着を脱ぎネクタイを外しただけのクールビズ開始1ヶ月、昨年に続く天の底が割れるほどの嶺北で大雨、12年五輪でアフリカやヨーロッパでは見たことの無い人が多い野球・ソフトを除外。

一年間ご苦労様でした！
「今期最後の点鐘」

次期辻田会長・南幹事よろしくお願ひします。
バッジの交換です。「ちょっと寂しそうな幹事(感じ)」



ディスカッションリーダー
木村君・辻田君



年度末懇親会最後は手に手つないで



あさがおグループの皆さん楽しんでますか？



ホームページでも見られます。

